

# 地域再生のかぎは高校生との交流の場づくり!!

## 矢板五区行政区

**●今回は「高校生との交流を深め地域の活性化を図っている」との情報が寄せられた矢板五区行政区を紹介しします。**  
秋葉充行政区長をはじめ、役員の皆さんにお話をお聞きしました。

### ●行政区の特徴は？

約四百八十世帯、人口約千六百人、高齢化率は三十%ほどです。育成会の子どもの数は約六十人と、年々少なくなっています。

商店街と住宅街がありますが、商店街は大型店舗に押され活気がなくなり、後継者不足となっています。住宅地が昔より増え、近隣の大企業に勤めていた人が定年を迎えた後、地域の活動に精力的に加わっています。最近新しい切り口でアイデアを出し合っているのでも面白が出てきました。



### ●活動は？

行政区のイベントの参加者が少なくなってきたので、夏祭りや秋祭りなどを行って少しでも参加していただきやすいようにしています。



また、行政区内にある七つの公園をきれいにしようと、七年前に公園管理運営委員会を発足し、毎月の会議で計画を立てています。年二回の整備活動は、百人近くが参加するコミュニケーションの場にもなっています。さらに、行政区内のメイソン道路にある縁石の雑草除去なども行い、「クリ

ン五区」を目指しています。五区は広いので、行政区のイベントに多くの方に参加いただくことで、地域間・世代間交流を行っていききたいと思っています。

**●取り組みの工夫は？**  
今年で三年目になりませんが、矢板中央高校と協力しながら、各祭りを運営しています。高校生との交流はパワーが出ると、何より楽しいです。また、ひとり暮らしや高齢者世帯などの引きこもりをなくし、公民館を利用してもらえるように、長寿会が「きらきらサロン」を開催しています。さらに子どもたちにも喜んでもらいたいと考え、夏休みには水鉄砲・竹とんぼ作りなども開催しました。月一回、発行している「五区だより」では、地区のイベントや人物紹介をしています。

### ●今後のアイデアは？

矢板中央高校の学校祭に参加協力して、より交流を深めていきたいです。公民館をうまく活用しながら、高校生の居場所づくりや世代間交流の機会づくりなど、企画メンバー一丸となって頑張っていきたいです。(T・O)

# 第一回長峰杯大会を開催!!

## 日本将棋連盟矢板支部

中学生のプロ棋士、藤井聡太君の活躍で今や全国的に将棋ブームに沸いていますね。ところで、矢板市の将棋界はどのような状況にあるのでしょうか。そこで今回は、八月十一日に「長峰杯」と銘打ち、将棋大会を開催した日本将棋連盟矢板支部の沼尾支部長(右)と藤原さん(左)にお話を伺いました。



**●活動はいつから**  
平成十一年に現在地に事務所を移しましたが、活動そのものは三十年以上になります。

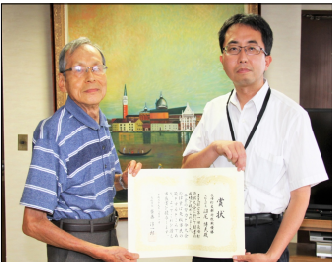
**●会員数と階級は**  
現在の会員は十三人で、階級別では四段以上が十人おられます。

**●将棋の魅力は**  
集中力と思考力を養うことができることです。武道同様「礼に始

まり礼に終わる」こと、礼儀作法も重んじています。対戦相手には、常に尊敬の念をもつて接することで、人づくりにも大いに役立つものと信じています。ここがゲームとは異なるところです。

**●今回「長峰杯」を開催したキッカケとその結果は？**  
将棋を通じて、何とか矢板の活性化を図りたいという思いからです。一回目の開催となった今大会は、四段・五段の強豪が揃うレベルの高い大会でしたが、団体戦では強敵である日光王将支部を下し矢板支部が優勝、また、個人戦でも仲間の鈴木四段が見事優勝を果たすことができました。

これを機に、県内でも最大の大会にしたいと考えています。



団体戦の市長賞を受け取る沼尾支部長

二家後ろにある「矢板囲碁将棋センター」で活動していきますので、気軽に見学にお越しいただけます。(T・S)

また、今回は地元のご婦人方にカレーを作ってもらったりと、事業者からは資金面でのご支援をいただき、大変感謝しております。

**●将来の展望は**  
とにかく将棋人口を増やしていきたいです。それにはまず、子ども頃から将棋に触れてもらうことが大切だと考えているので、小学校でのクラブ活動が盛り込まれたり、中学校や高校に将棋部ができたらうれしいですね。

